

# 第1回IF学生成果発表会

2010. 8. 31

医学部1号館第2セミナー室

## Understanding of pathophysiology by animal model グループ

### 開会の挨拶

小野 栄夫 教授 (病理形態学分野)

「Interdisciplinary Force (IF)学生成果発表会」の目的の1つは、分野を越えたところでの交流を通して研究の幅を広げて、新しい方向性のヒントをもらいながら研究を発展させることです。今回は、animal model を使って人の病態を解明していこうという点で共通していますが、テーマはそれぞれ違います。発表者は、皆に理解してもらうよう、わかりやすく説明して下さい。また、聞く方は、終了後に活発な討論をお願いします。



### 発表



大東 久佳 (呼吸器病態学分野)

「Hot Tub Lung 動物実験モデルの構築、病態解明」

20分という比較的長い発表時間だった点、研究分野の異なる方々が聴衆だった点において、プレゼンテーションの良い訓練になりました。背景の説明とスライドの見せ方に工夫の余地があったと反省しています。次の機会には修正し、さらに良いプレゼンテーションを目指したいと思っています。最後に、在学中 GCOE を介して幾度となく研究発表の機会を与えて頂きましたこと、御礼申し上げます。

海老原 伸 (病理形態学分野)

「関節強直症の動物モデルにおける IL-17A の役割」

先日行われた IF 研究発表会において、私は2つの立ち位置で感想を述べたいと思います。

一つ目は発表者としてです。今回、学位研究内容を初めて発表いたしました。聴講された先生方から意見をいただき、今後発表する際における改善点がはっきりしました。論文化する前に非常にいい経験をする事ができたと思っております。

二つ目は聴講者としてです。私は製薬企業で研究をしているのですが、企業とは全く性質の異なった(サイエンスに重点がある)議論がなされるのに新鮮味を感じる一方で、聴講者からの質問や意見があまりなかったことが少々残念でした。こういう少人数で行う発表会では、素人的質問が非常に大事だと思います。社会人として働く身として、参加者は必ず質問等を行うべきであると考えておりますし、それが NM-GCOE の発展に繋がっていくと思います。



## 胡 春艶 (腎・高血圧・内分泌学分野)

### 「Role of T-type Calcium Channel Blockade in the Regulation of Renal Medullary Circulation in Rats」

今回、「Understanding of pathophysiology by animal model」グループで5人の大学院生が発表を行いました。発表者毎に専門が異なり、発表で様々な研究内容を聞くことができ、大変貴重な機会となりました。一つ一つの発表が終わった後、先生と学生による活発な討論がありました。留学生は私だけであり、言語の壁もありましたが、この討論に私も積極的に参加でき、すごく良い経験となりました。



今回、私は学位審査を受けるつもりで発表の準備を行ったため、これまでの研究成果を全て詰め込んでしまいました。内容が多く早口の英語となってしまう、私の発表は理解し難かったかもしれません。その中で、小野栄夫教授及び海野倫明教授から頂いたご意見は、大変勉強になりました。

閉会の挨拶での海野倫明教授のお言葉「臨床に繋がる実験を目指す」は、大変印象深く今後の研究を続ける上での大きな励みとなりました。

## 大橋 潤子 (循環器病態学分野)

### 「Calcium/Calmodulin-Dependent Protein Kinase Kinase $\beta$ Plays a Key Role for the Diverse Functions of Endothelial Nitric Oxide Synthases System between Conduit and Resistance Arteries in Mice」

今回の IF 学生成果発表会におきまして、私は「導管血管(大動脈)と抵抗血管(腸間膜動脈)での内皮一酸化窒素合成酵素機能の多様性における分子メカニズムの解明」をテーマとしまして、マウスを用いて行った研究の結果を報告させて頂きました。学会と違いまして、時間制限を気にせず発表に集中できましたし、何よりも他分野の先生方より質問や意見をお聞きする機会が得られたことが、大きな糧となりました。これからの論文作成に活かしていきたいと思っております。また、同会で発表された大学院生の方々の臨床に直結する研究成果や実験手技など、勉強になりました。ありがとうございました。



## 有明 恭平 (消化器外科学分野)

### 「GCF2 Has an Indispensable Role for Colorectal Cancer Extravasation」

学生成果発表会では、スライドの brush up のきっかけや発表の予行演習などに有効なものと考えます。

しかし、各々専門性の高い仕事を行っており、抄録も当日配布であったため、他科の先生の発表については門外漢にはフォローしにくい会であったと思われれます。

## ● ● 開会の挨拶 ● ● ●

### 海野 倫明 教授 (消化器外科学分野)

本日は animal model を使った研究という共通のテーマで発表会が行われました。人間の体を使って実験できないことが沢山あるので、これからの医学の進歩のためには animal model というのは非常に重要です。ですが、人間の病態を本当に反映しているのかどうか、また動物と人で種間の違いがあるという点に気をつけなければなりません。それを上手にを使って、ぜひ10年後に患者さんに応用できるような研究をどんどんして欲しい。これからも気を緩めずますます励んでください。

